

<p>第 19 回 大田区移動等円滑化推進協議会 議事録</p>	<p>平成 30 年 10 月 29 日(月) 10:00～11:00 本庁舎2階 201・202・203 会議室</p>
<p>■ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大田区移動等円滑化推進計画の特定事業進捗状況について 2 平成 31 年度以降の協議会活動について 3 その他 <p>■ 配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 協議会委員名簿 ・ 資料1 特定事業計画進捗シート 	

■ 質疑応答/意見交換

1. 大田区移動等円滑化推進計画の特定事業進捗状況について

委員 : 資料1の京急蒲田駅の案内について、少々分かりにくい点があると思った。例えば、知的障がいのある方にとっては、複数階あるホームの何番線に電車が止まるのか分からない場合がある。できれば、誰が行ってもすぐに分かるような案内盤があると良い。

バスの利用について、知的障がいの方が自分の降りるバス停の前で準備をし、停車する前に席を立っている光景を一度見かけたことがある。運転手さんは「完全に止まるまで座ってお待ちください。」とアナウンスをしてくれたが、じっとしてられない方もいる。社内研修等の中で、知的障がいの特徴について扱ってもらい、どうかご理解していただきたい。

委員 : 京急蒲田駅における案内盤については、社内に持ち帰り検討させていただく。

委員 : バスについて、こちらは非常に難しい問題で、運転中にブレーキをかけざるを得ない場面がありアナウンスを行っているが、ショックを受けるお客様もいると把握している。ただ、運行中に怪我をされると事業者側の責任となってしまうため、アナウンスについてはご理解をいただきたいと思う。

委員長 : 事業者さんからすれば、バスはブレーキをかけることもあるため、安全面から座って待ってもらいたいという思いはある。難しいが、できれば前の方に座ってもらい転倒を防ぐ等、様々な方法を検討してもらいたい。

委員 : じっとしてられないという特徴がある人がいて、バスの中でこういった危険性があるのかを運転手さんや乗務員さんに知っていただくだけでもありがたい。

委員 : 委員からの意見にもある通り、バリアフリーに関しては身体に対するハード面だけではなく、ソフト面でも改善してもらいたい。案内盤については、高齢者にもわかりやすく文字を大きく、難しい駅名がわからない方向けに駅名をひらがな表示にする等行っていただきたい。

委員長 : 駅名のひらがな化は、漢字と併用表示を行っているところが多いかと思われる。

- 委員 : 大田区民センターの完成時期についてうかがいたい。
高齢者標準化社会という言葉が出ている中、車いす等でバスを利用する際、運転手がバスを降り、板を出し入れする等で5～6分かかる現状がある。ヨーロッパやアメリカでは、ボタン一つで板が降り、車いすを利用する方が一人で乗り降りすることが可能である。こういった整備は徹底して行うべきではないか。
また、バス停の待ちスペースについて、だれでも雨風を凌げる待合所はバス会社として整備すべき。
- 委員 : 大田区民センターの完成時期については、後日事務局を通じて説明する。
委員 : バスの車いす利用について、日々改良しており自動機を試験的に導入してみたところ、人が多いと作動しない等の不具合があったため、現在色々な方法を検討している段階。
待合所については、歩道の広さ等スペースの問題もあり、全てのバス停に整備できる環境がないということがある。道路の拡張整備等、バス事業者だけではどうしてもできない状況があるため、他関係者とも協力していきたい。
- 委員 : 近くに障がい者センターがあるが、いつも雨にさらされながらバスに乗り降りしている光景を目にする。大田区から、事業者からという方向で考えるのではなく、どちらからも要望書等を出して積極的に整備を行って欲しい。この場の会議から一歩踏み出して、新しい大田区のバリアフリー計画の第一として、整備を推進してもらえたらと思う。よく検討してほしい。
- 委員 : バスの待合所の話題が出たが、蒲田駅東口からバス停までの間に雨が強いとどうしても濡れてしまう。屋根の整備だけではなく、駅からバス停までの間の整備も検討していただけたら嬉しい。
- 委員 : よく池上通りを散歩しているが、大森駅まで辿り着くのに歩道がとても狭い、自転車が多いことが気になる。池上通りだけではないが、自転車は車道を通るルールだが守られていないし、歩道に看板がはみ出していたり電信柱が多く、視覚に障がいがあるととても歩きにくい。これらの問題に対する現状と今後について、分かる範囲で教えて欲しい。
- 委員 : 自転車の通行に関しては、パトロール活動を通してマナーが悪く事故に繋がる走行を注意している。今後も歩行者の方に迷惑とならないよう、事故のないような走行を促してまいりたい。
看板に関しても、今後とも区と一緒にあって啓発指導を行っていきたい。
- 委員 : 川崎の第一京浜に行く機会があったが、自転車走行レーンと歩行者用レーンと分けられていた。大田区でも環状八号線と第一京浜のあたりに自転車レーンを作る計画があったと聞いているが、現状どうなっているのか伺いたい。
- 委員 : 現在は、国道部分の設計整備を進めているところであり、自転車歩行空間の整備もあわせて進めている。
- 委員 : 大田区では、自転車走行に関して、「停める」「走る」「守る」という三本柱で進めている。「停める」というのは、自転車置き場の整備を指し、「走る」は、自転車走行レーンを整備し快適な走行を可能とした上で、歩行者の

方に迷惑をかけないこと。「守る」というのは、自転車マナーの徹底ということで、全ての人に少しでも安心して歩行いただけるよう、警察と協力し普及啓発に努めている。今後もこの三本柱に基づいて、関係部署一丸となって取り組んでまいりたい。

2. 平成 31 年度以降の協議会活動について

3. その他(委員任期について 他)

委員 : 心のバリアフリーの理解啓発活動ですが、小学校の教員向けにUDワークショップを行った。生徒にも教えられることが多くあったと好評だったので、ぜひ来年度以降も続けてほしい。

委員 : 教員向けのワークショップは大変好評であったため、教育委員会に協力いただきながら、今年度の実績を基に続けていけるよう働きかけていきたい。平成 27 年度から行っているユニバーサルデザインの区民向けの地域実践講座は、今年度で 18 地区全てを回り終わる予定であり、来年度以降は関係者を含めて方向性を定めていきたいと考えている。

委員 : 事前に大田区のホームページを確認したところ、議事録が 14 回までしか確認することが出来なかったため、連合会への説明のためにも載せてほしい。「移動等円滑化」という言葉に馴染みがないため、会議の経緯を区民向けにまとめてもらうと分かりやすい。

委員 : 会議の議事録をホームページに載せることはもちろん、一目で理解できるようなわかりやすく伝えるための資料についても検討させていただきたい。

委員長 : 専門的な用語も多いため、A4一枚でも構わないので、わかりやすい会議のまとめがあれば良いと思う。

副委員長 : 区民部会や事業者部会についても会議のやり方を考えてほしい。

だれでもトイレについてだが、これは東京都が作った言葉で、誰でも入って構わないという意味に捉えられる。一方、多機能トイレという言葉もあり、文字通り多くの機能を持つトイレであるが、必ずしもオストメイト対応しているとは限らない。ぜひ多機能トイレにはオストメイトの機能をつけ、拡充していただきたい。

副委員長 : 「すいすいプラン」という名前には、ユニバーサルデザインのとおり、みんなにわかりやすくという思いが込められているため、受け継いでいきたい。

内容について、基本構想策定の際に池上通りや大森駅からさぽーとぴあまで歩いていけるということを示すため、今回は大森駅からさぽーとぴあまで繋げて指定した経緯がある。そのため、こういったところをどのように反映させるかが気になっている。

大田区では「窓口サービス」「案内誘導サイン」「視覚障害者誘導用ブロック」の3つのガイドラインを策定したところであるが、こちらをしっかりと守っているかどうかの視点についても今後は必要となると思う。

自転車に関する話題が出たが、代表交通手段分担率を見るとオランダ、ドイツ、デンマークが 20 パーセント、日本は 13%と高い水準である。デンマークでは車道、自転車道、歩道とハードをしっかりと整備しており、スピードを出して自転車を運転していた。土地が少ない日本で自動車道をどう

整備していくかが問題となるが、ハードの整備を進めていかななくてはならないと思っている。

委員長 : 大田区には様々なガイドラインが多くあるので、参考に委員の方に配布していただけると良いと思う。

以上